

4 英語の授業を充実させるための Questions & Suggestions

Q1：授業は全て英語で行わないといけないのでしょうか。

教師が授業を英語で行うことは、生徒が英語に触れる機会を充実させるために必要なことです。使用する語彙や話すスピードなどに配慮し、生徒の理解度を確認しながら英語を使用するように心がけましょう。また、教師には生徒のロールモデルとしての役割が求められます。教師が英語を使う姿を示すことで、生徒も英語を使いたくなるような雰囲気をつくり、言語活動を活性化させる工夫をしましょう。文法事項の説明や複雑な指示の際に日本語を使用することも考えられますが、言語活動の支援に必要な程度にとどめましょう。

Q2：クラスの中には、英語が苦手な生徒やおとなしい生徒もいますが、全員の生徒を授業に積極的に参加させるためには、どのような工夫をすればよいのでしょうか。

まず、生徒の習熟度に応じたタスクを工夫したり、生徒が間違いを恐れずに安心して英語を話すことができる雰囲気をつくりましょう。次に、英語が苦手な生徒も取り組みやすいように、段階的な指導を心がけましょう。例えば、最初からクラス全体の前で発表させるのではなく、ペア・ワークや少人数のグループでの練習を繰り返すことで、自信をもって意見や考えを伝えやすくなるでしょう。また、グループ・ワークの際は、生徒一人一人に役割を与え、発言する機会を十分に確保するとともに、助け合い、学び合う効果を引き出しましょう。さらに、活動中の生徒の様子や成果に対して、褒めたりアドバイスをしたりといった、適切なフィードバックをすることや、生徒同士で相互評価させることにより、学習への動機付けを更に高めることができるでしょう。

Q3：言語活動やパフォーマンステストに充てる時間が十分に確保できませんが、どうしたらよいのでしょうか。

年間学習指導計画や単元構想を作成する際に、単元の目標や指導手順について、同僚の教師とよく相談するとともに、言語活動やパフォーマンステストの具体的な内容についても、計画の中に盛り込んでおきましょう。生徒の学習内容について「授業でしかできないこと」と「家庭でもできること」を整理し、授業での指導内容を精選することにより、言語活動やパフォーマンステストの時間の確保は可能になります。

Q4：コミュニケーション能力の育成を重視することによって、大学入試に対応できるのでしょうか。

授業を実際のコミュニケーションの場面とすることで、生徒の学習に取り組む姿勢が能動的になるだけでなく、言語活動を通して多くの語彙や表現に触れることができます。また、既習の語彙や表現の知識を活用しながら、教科書や資料等を読み進めることによって、情報処理能力や表現力が高まることが期待できます。こうして身に付けた英語力で、現行の大学入試や、4技能を評価する入試にも対応することができます。

Q5：小・中・高等学校における英語教育の連携は、今後どのようになるのでしょうか。

2020年度より、小学校3・4年生の「外国語活動」で「聞くこと」と「話すこと」を扱い、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を、5・6年生の「外国語」では「読むこと」と「書くこと」にも慣れ親しませ、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指します。中学校、高等学校では、授業は英語で行うことを基本とし、生徒のコミュニケーション能力を更に高めることが求められます。さらに、小中高の各学習段階における学習到達目標をCAN-DOリスト等で明確に示すことで、児童・生徒が学習を振り返ったり、見通しを立てて次の学びに向かったりすることができるような英語教育の連携が、今後ますます求められます。